

1. 主会場選定の検討

1-1. 式典運営の要件整理

式典運営の要件整理

- 先催県の事例を踏まえ、式典運営の検討に必要な項目について、以下の通り整理する。

項目	必要機能	要件
主会場に関する要件	式典会場（メインスタジアム、アリーナ）	<ul style="list-style-type: none"> 開閉会式時には、仮設席を含み固定席で最大15,000席を確保（式典音楽、合唱者席、視界不良席を除く） 多目的エレベーターおよび車いす席の配置、ユニバーサルデザインに基づく誘導サイン・点字ブロック等の整備
皇族関連の対応	進入路：車寄せ空間	<ul style="list-style-type: none"> 皇室の車寄せ・車両動線や駐車スペースも安全最優先で確保（滋賀）
	一般と分離した動線	<ul style="list-style-type: none"> 皇室動線は、専用経路と車列動線を確保し、一般動線と完全に分離 皇室動線は、他の動線と交差・重複がないように時間帯ごとに複数の動線を管理し、警備計画と連動させた 行幸啓が予定されている周辺の道路では、一時的に一般車両の通行を制限する対応（交通規制）が行われている（滋賀）
	控室（貴賓室／行幸啓本部／御先導お出迎え控室）	<ul style="list-style-type: none"> 皇室席（ロイヤルボックス）をメインスタンド中央に配置 2階EV付近には特別控室あり（佐賀） メインスタンド1階 エントランス付近に御先導お出迎え控室、4階に貴賓室を配置（滋賀）
動線計画・セキュリティに関する要件	式典運営および行幸啓対応への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 選手、関係者、観客、皇族・来賓、報道関係者の動線を明確に分離できること 皇族・来賓動線について、高いセキュリティ水準を確保できること ID管理、手荷物検査所を確保できること 機材搬入動線と人の動線を分離できること救急・医療動線を常時確保できること 段差のない車いす用の経路を設け、視覚的にも分かりやすい誘導サインで案内すること
アクセス・輸送に関する要件	開・閉会式開催時の大量輸送に対応	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関（モノレール、路線バス等）を活用した来場が可能であること シャトルバス乗降場および待機場を確保できること（選手団、一般） 近隣に一般観覧者用の臨時駐車場を確保できること（参考：滋賀県彦根市駐車場設置利用計画） 一般観覧者の自家用車利用を抑制する運営が可能であること 車いす利用者等のための個別輸送・乗降スペースを確保できること
おもてなし空間	開催県PRブース	<ul style="list-style-type: none"> 国スポ スポンサー関連店のブース 開催県のPR・物産販売や飲食ブース

式典運営の要件整理

- 先催県の事例を踏まえ、式典運営の検討に必要な項目について、以下の通り整理する。

項目	必要機能	要件
諸室に関する要件 (必要諸室・空間)	運営・統括機能	<ul style="list-style-type: none"> 式典本部／大会実施本部を設置できること
	行幸啓・来賓対応機能	<ul style="list-style-type: none"> 皇族・来賓控室を設置できること 皇族・来賓専用動線および出入口を確保できること 皇族・来賓動線が他の利用者動線と交錯しない計画が可能であること
	報道対応機能	<ul style="list-style-type: none"> 皇室記者室を設置できること 一般報道員詰所を設置できること 撮影・取材動線と一般観客動線を分離できること
	選手・出演者対応機能	<ul style="list-style-type: none"> 選手控室／監督・役員控室／演技者控室／マスコット控室を確保できること 入場行進に備え、選手団が整列し待機するスペース※先催県の多くは補助競技場を活用 各県選手団の拠点スペース（荷物置き場、着替場所等） 式典前演技者、オープニング出演者が出番直前に待機する場所 式典会場（開・閉会式会場）に近接している必要がある 式典会場に近接しており、十分なスペースが確保できるときには控所と兼ねることを想定する 式典前演技者、オープニング出演者が待機所移動前に準備等を行う控え所 幅広い年齢層の出演者が長時間（3～4時間程度）待機する必要があるため、屋根や椅子の確保が必要※先催県では会場内の施設（体育館等）や近隣の学校等公共施設、隣接したホテルの宴会場等にて確保
	医療・福祉対応機能	<ul style="list-style-type: none"> 医務室／救護室・静養室／授乳室を設置できること バリアフリートイレを必要数確保できること
	付帯・支援機能	<ul style="list-style-type: none"> 更衣室を確保できること 機材置場・倉庫を確保できること
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設で不足する諸室については、仮施設で補完可能であることを要件とする
荒天時対応に関する要件	沖縄特有の気象条件への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 雨天時においても式典運営が継続可能であること 荒天時の代替施設（屋内施設等）が設定可能、または既に想定されていること 荒天時の運営切替に伴い、諸室・動線計画の再編が可能であること 熱暑対策（屋根、日射遮蔽、休憩・待機環境等）が確保可能であること

1. 主会場選定の検討

1-2. 開閉会式会場候補施設の抽出

開・閉会式会場候補施設の抽出

- ・「総合開・閉会式会場選定基本方針（案）」に基づき、開閉会式の実施に必要な規模、機能、安全性、運営面などの条件を踏まえ、県内の主要施設の中から候補施設を抽出した。

第88回国民スポーツ大会・第33回全国障害者スポーツ大会 総合開・閉会式会場選定基本方針（案）

総合開・閉会式は、次の事項を考慮して総合的に判断し、選定する。なお、総合開・閉会式会場は、総務企画委員会において候補地の選定・審議を行い、常任委員会において決定する。

1. 会場地となる市町村から開催に必要な協力が得られること。
2. 会場周辺に駐車場等の用地や仮設テント等の設置スペースが十分確保できること。
3. 多数の参加者が集まることができる輸送及び交通手段が確保できること。
4. 会場周辺に相当の宿泊受入能力があること。
5. 全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、国民スポーツ大会と同じ会場で行うことを原則とする。
6. 雨天や熱暑などの気象条件に対応し、選手のコンディションや、効率的な式典運営に配慮可能であること。

候補施設抽出の条件

開・閉会式会場の選定にあたって、候補施設ごとの特性を多面的に比較するため、以下の評価指標を設定し、総合的な評価を行うものとする。

施設の所有形態

原則として、県有施設を優先するが立地条件や地域意向、開催効果等を踏まえ、県有施設以外も検討対象とする。

施設規模と整備可能性

観客席は原則として、仮設席を含めた収容規模を確認する。

行幸啓対応

皇族の臨席を前提に、安全かつ円滑な対応が可能な施設構造や管理体制を備えていることを重視する。

選手・関係者・来訪者にとっての安全・快適性

控室や休憩スペースの整備、関係者と観客の動線分離により、安心して過ごせる環境の確保を重視する。

簡素化・効率化の実現可能性

国の大会開催方針を踏まえ、必要最小限の整備で大会運営が可能か、過剰整備を回避し、持続可能かつ環境負荷の小さい開催ができるかを評価する。

主会場候補施設の抽出

候補施設抽出の条件に基づいて検討を行い、県内の既存施設の中から主会場候補として4施設を選定対象とした。

①沖縄県総合運動公園
陸上競技場
(タピック県総ひやごんスタジアム)

②リーグ規格スタジアム
(奥武山公園内に整備予定)

③沖縄コンベンションセンター
(展示棟)

④沖縄アリーナ

1. 主会場選定の検討

1-3. 候補施設の概要・課題整理

沖縄県総合運動公園 陸上競技場

- 第1種公認で、12,000人超の収容力を有し、仮設対応も可能。多目的施設との連携により大会運営拠点としての整合性が高く、控室・ゾーニング構成にも柔軟性がある。
- バリアフリー化や熱暑対策にかかる改修が必要と見込まれる。

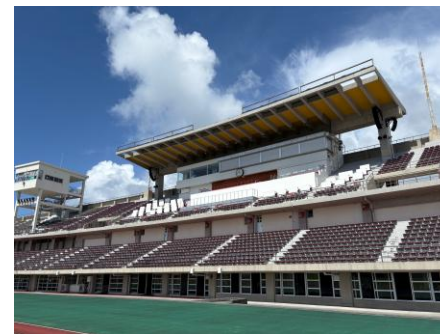


資料：沖縄県総合運動公園ホームページ

区分	
施設名称・所在地	沖縄県総合運動公園 陸上競技場（沖縄市比屋根5丁目）
所有者・管理者	沖縄県 指定管理者：（株）トラステック ※現在、時期指定管理者公募中
施設概要	昭和62年開場、平成27年改修 第1種公認競技場 全天候型トラック400m×8レーン 天然芝フィールド メイン・バックスタンド併設。
収容規模	約12,000人（うちメインスタンド7,000席） ※仮設スタンドにより1.5～2万人規模への拡張可能。
立地・アクセス	那覇空港から約32km。最寄りICより約10分 最寄りバス停：県総合運動公園北口
バリアフリー対応	身障者用駐車場 バリアフリー通路 車いす対応トイレ
開閉会式会場としての特徴	県有施設で大会運営に柔軟性がある。補助競技場を控所や待機エリアとして活用可能。開放的な空間で大型演出が容易。

沖縄県総合運動公園 陸上競技場 課題整理

- 陸上競技場の諸室が不足しており、仮設テントやプレハブ設置による諸室の確保が必要である



項目	課題・留意事項
1. 皇族関連の対応	<ul style="list-style-type: none"> 広いエントランス空間で車寄せが容易であり、控室・ロイヤルボックスまでの動線分離が確保できている 施設入場の際は一般動線と交錯するため、一時的に立入禁止にする等で安全確保する必要がある
2. 観覧者・参加者の動線	<ul style="list-style-type: none"> 一般動線（赤）と選手団動線（紫）が一部で接近・交錯する恐れがあり、混雑やセキュリティ上のリスクがある EVホールからはVIPラウンジとギャラリーへアクセス可能。（車いす利用者はEVで2階部分へ移動可能）
3. 諸室・待機所の確保	<ul style="list-style-type: none"> 陸上競技場の諸室が不足。陸上競技場の外部空間にテントやプレハブを設置し、必要な諸室を確保する必要がある 陸上競技場付近の屋内施設が体育館のみであるため、屋外施設に選手の控室は仮設テントで確保することが考えられる 近接施設や屋外空間が有効に活用できるが、体育館は空調が必要。屋外空間には日除け対策のテントが多数必要
4. 環境・気象リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> おもてなし広場や選手待機場所の屋外利用が多く、日除け対策テントが必要 夏場の高温多湿に対応したミスト設備や給水所配置のための給水管整備が必要
5. 仮設施設・運営スペースの展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> 補助競技場に雨天時の屋内走路として使用可能な仮設テントを設置
6. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が複数エリアに分散しており、大型バスシャトルバスや案内誘導計画が不十分だと混乱の可能性がある 一般観覧者は、コザ運動公園やライカムからシャトルバスで輸送等の対応が必要 周辺の道路は朝夕等のピーク時に渋滞が生じることが予想される

奥武山公園 新スタジアム(Jリーグ規格)

- Jリーグクラブ参入を視野に整備構想が進められているスタジアム。初期段階の整備では1万人規模の観客席を有する。
- 国スポ・全スポの開催時期(令和16年)前の令和13年の供用開始を予定しており、主会場としての活用可能性がある。
- 奥武山公園内の他施設利用によりコンパクトに開催が可能であり、バリアフリー化の整備費用が抑えられる。



資料：沖縄県ホームページ

区分	
施設名称・所在地	奥武山公園 新スタジアム (Jリーグ規格) (那覇市奥武山町52)
所有者・管理者	沖縄県 (整備計画案を策定中)
施設概要	奥武山公園内 (陸上競技場・補助競技場・のびのび芝生広場第1駐車場南側区画) 約6.2haに2031年度の供用開始を目指し、Jリーグ対応 (J1規格) スタジアムをPFI方式で整備予定
収容規模	初期1万人、段階的に屋根付きスタンドを増設し、将来2万人規模の観客席とする整備計画
立地・アクセス	那覇空港から約3km 最寄りモノレール「奥武山公園駅」から徒歩すぐ 最寄りバス停：公園前駅
バリアフリー対応	—
開閉会式会場としての特徴	県有施設で大会運営に柔軟。武道館を控所や待機エリアとして活用可能。開放的な空間で大型演出が容易。また、空港からも近くアクセスが容易

奥武山公園 新スタジアム(Jリーグ規格) 課題整理

- 現段階で、諸室の配置検討ができておらず、設計が確定次第調整が必要である。
- サッカー競技会場として開会式後に会場転換をする場合、芝生の管理及び競技日程の調整が必要である。

項目	課題・留意事項
1. 皇族関連の対応	<ul style="list-style-type: none"> • 皇族・要人の安全かつスムーズな動線が現状では明確に区分されていないため、式典会場周辺から開会式会場までの専用ルートを設定するとともに選手団の控室に隣接する駐車場を行幸啓および大会関係者専用として区分するなど、控室への動線を含めた運用が必要
2. 観覧者・参加者の動線	<ul style="list-style-type: none"> • 観覧者（オレンジ）と選手団（紫線）の動線が選手団整列場所から開会式会場までの動線で交差する箇所があり、混雑や警備上の課題が懸念される • おもてなし広場（西側）から総合開・閉会式会場まで距離が約350mある • 会場内の車いす観覧席やスロープ設置状況など、ユニバーサル動線が不明瞭
3. 諸室・待機所の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 選手団の待機・整列スペース（紫ゾーン）が限られており、雨天時の屋内代替計画として仮設テントを設置する等の対応が必要 • 開会式会場の近くにスペースを設けることができないため、報道関係者の控室が式典会場から約250m離れており、機材搬入経路や通信環境の整備が不可欠
4. 環境・気象リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> • おもてなし広場や選手待機場所の屋外利用が多く、日除け対策としてテント6基の増設が必要 • 夏場の高温多湿に対応したミスト設備や給水所配置のための給水管整備が必要
5. 仮施設・運営スペースの展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の控室ゾーンは数が限られており、長時間勤務を想定した運営本部をバックヤードゾーンに確保し、休憩所・食事スペースを出演者控室前ゾーンにプレハブで確保する必要がある
6. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> • 空港から近く公共交通機関でのアクセスがしやすい • 大型バス駐車場が2か所に分散され、誘導・運営が煩雑。交通整理・案内体制の強化が必要 • 駐車台数は限られているがモノレールやバスでの来場が推奨できる。その際に事前の案内が必要 • 周辺の道路は朝夕等のピーク時に渋滞が生じることが予想される
7. その他	<ul style="list-style-type: none"> • サッカー競技会場利用として開会式後に転換する場合、芝生の管理及び競技日程の調整が必要

沖縄コンベンションセンター(展示棟)

- 屋内施設として最大約5,000人収容可能。宿泊・観光施設が隣接し、演出環境と動線制御に優れる。
- 照明・音響・動線分離の条件を満たすほか、既存機能を活かした簡素な大会運営が見込まれる。規模面は限界があるが、分散型運営などの工夫が可能。



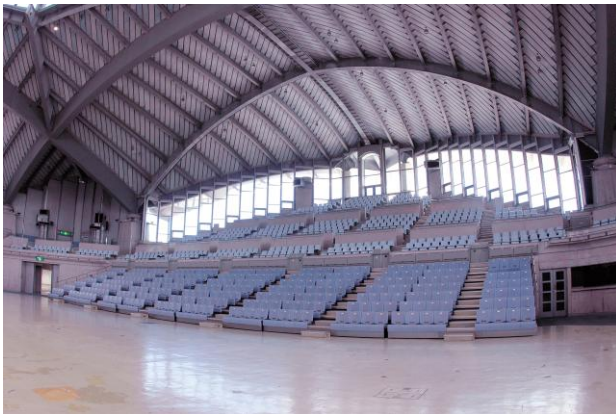
資料：沖縄コンベンションセンターホームページ

区分

施設名称・所在地	沖縄コンベンションセンター（宜野湾市字真志喜4丁目3-1）
所有者・管理者	沖縄県（指定管理者：沖縄県コンベンションセンター共同事業体）
施設概要	昭和62年開館の県立複合施設で、劇場・展示場・会議室を備え、MICE・コンサート・展示会など多用途に対応している。
収容規模	約4,120人（2階スタンド：1,468席、可働客席：672席、移動客席：1,980席）※コンサート時 最大収容人数5,000人
立地・アクセス	那覇空港から約14km（車で約40分） 最寄りバス停：沖縄コンベンションセンター前
バリアフリー対応	身障者用駐車場、点字ブロック、車いす対応トイレ
開閉会式会場としての特徴	県有施設で大会運営に柔軟。屋内のため、天候に左右されない。式典のみを実施するので動線・警備の負担を分散できる。

沖縄コンベンションセンター(展示棟) 課題整理

- 観客席が少なく、観客収容に制約があり、動線分離や仮設スペース確保等の運営面の調整が必要である。

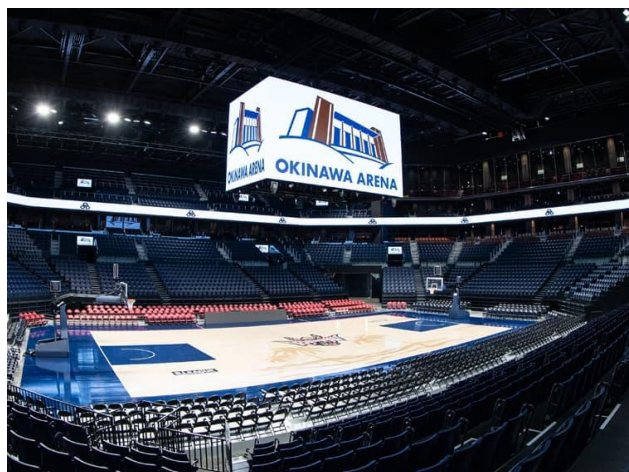
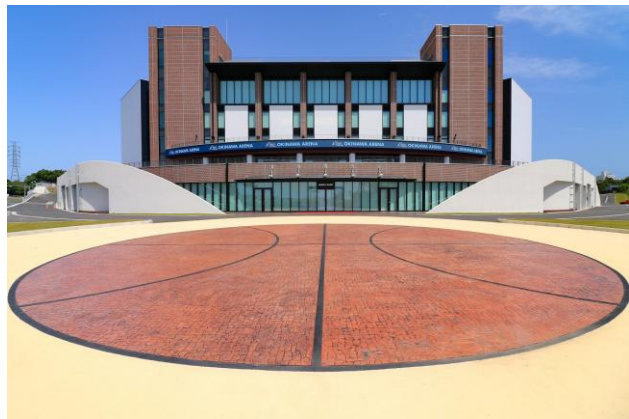


資料：沖縄コンベンションセンターホームページ

項目	課題・留意事項
1. 皇族関連の対応	<ul style="list-style-type: none"> 会場内の会場全体を見渡せる場所に仮設のロイヤルボックスの設置が必要 行幸啓（ピンク）と観覧者（赤）の動線が選手団控室ゾーンで交差する可能性がある
2. 観覧者・参加者の動線	<ul style="list-style-type: none"> 観覧者（赤、オレンジ）は、ID管理エリア内を移動することができるため立ち入り禁止場所はフェンス等で囲って管理する必要がある
3. 諸室・待機所の確保	<ul style="list-style-type: none"> 会議棟A・Bは部屋が区切られており、各待機場所を細かく分けて使いやすい
4. 環境・気象リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> 屋内のため天候に左右されないことがメリットとしてあるが、雨天時の屋外移動やバス乗降には課題がある 夏場の高温多湿に対応したミスト設備や給水所配置のための給水管整備が必要
5. 仮設施設・運営スペースの展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> 現在の控室ゾーンは数が限られており、長時間勤務を想定した運営本部をバックヤードゾーンに確保し、休憩所・食事スペースをおもてなし広場ゾーンにプレハブで確保する必要がある
6. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が点在しているため混雑を防ぐため警備員やスタッフの誘導が必要になる 敷地内の駐車台数が限られているため、近隣の民間駐車場や公共交通機関の利用促進が必要 周辺の道路は朝夕等のピーク時には渋滞が生じることが予想されるため、シャトルバス運行や分散退場の対策が必要

沖縄アリーナ

- 収容規模は最大1万人の県内最大規模の屋内アリーナ。
- 演出設備・音響・照明環境が非常に高水準であり、天候に左右されず安全・快適な運営が可能。

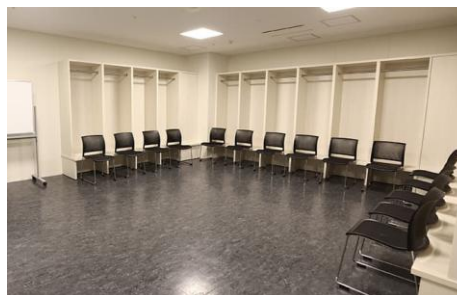
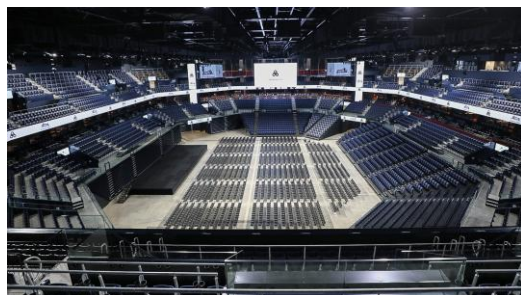


資料：沖縄サントリーアリーナホームページ

区分	
施設名称・所在地	沖縄サントリーアリーナ（沖縄市山内1丁目16-1）
所有者・管理者	沖縄市（指定管理者：沖縄アリーナ株式会社）
施設概要	令和3年開場。地上6階建て、建築面積は約11,050㎡。スポーツ時は約8,500人収容。最大収容人数は10,000人。琉球ゴールデンキングスの本拠地で多目的利用が可能
収容規模	バスケットボール：8,500人 コンサート：8,000人 最大収容人数：10,000人
立地・アクセス	那覇空港から約28km。最寄りICより約1分 最寄りバス停：沖縄南インター、沖縄市運動公園前駅
バリアフリー対応	身障者用駐車場、車いす席、車いす対応トイレ、フレンドリールーム（明るい光や大きな音の軽減、人混みを避けるルート）
開閉会式会場としての特徴	屋内施設のため天候の影響がない。高規格な演出対応が可能。観客の快適性が高い。人流抑制・動線分離・警備計画が立てやすい。既存の諸室を大会控室として使用可能

沖縄アリーナ 課題整理

- 沖縄アリーナは他施設に比べ環境が整っている。式典機能の（動線・ロイヤルボックス等）の調整が必要である。



資料：沖縄サントリーアリーナホームページ

項目	課題・留意事項
1. 皇族関連の対応	<ul style="list-style-type: none"> 開会式会場までVIP対応の特別駐車場エリアや動線あり 他の観客と動線を分けたVIPエントランスを1階部分に2カ所配置 国際規模のイベントにおける国賓やエグゼクティブゲストの方々をお迎えすることを想定して設計された特別室あり
2. 観覧者・参加者の動線	<ul style="list-style-type: none"> 観覧者（赤線）と選手団（紫線）の動線が開会式会場エリアで交差する可能性があり、混雑や警備上の課題が懸念される 観覧者は、2階メインエントランスから入場し、メインコンコースを經由して客席にアクセスする動線 選手団控室や整列場所から総合開・閉会式会場まで約750m（徒歩10分）距離があるため動線の効率化が必要 車いす観覧席が配置され段差のないフロア構造（スロープ）で観覧席までスムーズにアクセス可能
3. 諸室・待機所の確保	<ul style="list-style-type: none"> アリーナ内には機能性の高い連結が可能な5部屋並びの多目的室や、スポーツやパフォーマーの控室に使える更衣室が6部屋、鏡張りのダンススタジオ等、使い勝手とアクセスのよい各種部屋が用意されている 出演者動線を考慮した特別しつらえの控室が2カ所あり、出演者や式典役員の控室として利用できる 報道関係者の控室が式典会場から約500m（徒歩7分）離れており、機材搬入経路や通信環境の整備が不可欠
4. 環境・気象リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> おもてなし広場や選手待機場所の屋外利用が多く、日除け対策としてテント6基の増設が必要 夏場の高温多湿に対応したミスト設備や給水所配置のための給水管整備が必要
5. 仮施設・運営スペースの展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> 現在の控室ゾーンは数が限られており、長時間勤務を想定した運営本部をバックヤードゾーンに確保し、休憩所・食事スペースをおもてなし広場ゾーンにプレハブで確保する必要がある
6. アクセス	<ul style="list-style-type: none"> 立体駐車場があるが、周辺道路の混雑を防ぐため警備員やスタッフの誘導が必要になる コザ運動公園内の駐車場もあるため、駐車場ごとに利用者を区分して適切に管理する必要がある 沖縄南ICから近くに位置し、周辺の道路は朝夕等のピーク時には渋滞が生じることが予想される

1. 主会場選定の検討

1-4. バリアフリー対応一覧表

バリアフリー対応一覧表

- ・ 4施設のバリアフリー対応について、比較表を以下に示す。
- ・ 奥武山新スタジアムのバリアフリーについては、今後の要求水準書や設計提案により具体化される予定である。
- ・ コンベンションセンターと沖縄アリーナについてはホームページのバリアフリー情報をもとに検討した。

■バリアフリー対応不適合一覧表

No.	箇所	対応項目	沖縄県総合運動公園 陸上競技場	奥武山新スタジアム	コンベンションセンター (展示棟)	沖縄アリーナ
1	敷地内出入口	自動ドア	○ (エントランスのみ)	○	×	○
		出入口段差	△ (スロープ1本のみ)	○	○ (取付スロープを設置)	○ (段差なし、スロープあり)
2	階段	手すり	△ (一部欠落箇所あり)	○	-	○
		段鼻コントラスト	△ (一部視認性不足)	○	-	○
3	動線	階段前点字ブロック	△ (一部のみ設置)	○	-	○
		エレベーター	△ (現状、一般利用不可)	○	○	○ (5基、車いす対応EV3基)
4	トイレ	車いす対応	○ (要改修)	○	○	○
		オストメイト	○ (要改修)	-	×	○
		補助犬トイレ	×	-	×	×
5	客席	車いす席	△ (一定数確保が必要)	○ (数・配置未定)	-	○
		同伴者席	○	○ (数・配置未定)	-	○
6	授乳室		×	○	×	○
7	案内	駐車場バリアフリー案内表示	○	○	○	○
8	駐車場	車いす用区画	△ (台数不足)	○	○ (10台)	○

1. 主会場選定の検討

1-5. 比較評価表

比較評価表

- これまでの基礎調査を踏まえて、候補施設の比較表を以下に示す。

評価項目	屋外		屋内	
	沖縄県総合運動公園 陸上競技場	奥武山新スタジアム (Jリーグ規格)	コンベンションセンター (展示棟)	沖縄アリーナ
①規模・収容	◎ (約12,000席 + 仮設で2万人)	○ (当初整備は約1万人)	△ (約5,000人規模)	○ (約8,000人規模)
②-1 観覧者・参加者の 動線	○ (分離可能)	◎ (分離可能)	○ (分離可能)	◎ (入退場・出演者・要人動線が 完全分離可能)
②-2 諸室・待機所の確 保	○ (諸室不足だが仮設で対応可)	◎ (諸室・滞留スペースあり)	△ (諸室不足だが他棟で確保可 能)	◎ (サブアリーナ・多目的室、更衣 室等で確保可能)
③行幸啓対応 (皇族動 線・控室・警備)	○ (専用動線設定可能)	◎ (VIP関連ゾーンあり)	△ (一部交差の可能性あり)	◎ (専用動線・控室充実、警備 性高)
④気象・環境対応	× (熱射・強風・降雨リスク)	○ (スタンドに屋根あり)	◎ (屋内、気象影響なし)	◎ (屋内、気象影響なし)
⑤バリアフリー対応	△ (段差への対応や仮設トイレの整備 が必要)	◎ (ユニバーサルデザインに配慮)	△ (段差への対応や仮設トイレの 整備が必要)	◎ (車いす席やスロープ等、バリア フリーに対応)
⑥アクセス (交通・搬入 動線)	○ (駐車場7カ所1200台収容、シャトル バス乗降場あり)	◎ (那覇中心部でアクセス○ パークアンドライド可能)	○ (宿泊・観光施設隣接、交通 便良)	○ (駐車場は1780台収容、 シャトルバス乗降場あり)
⑦周辺環境 (半径1km 以内の宿泊部屋数)	△ (計300室)	◎ (計1486室)	○ (計820室)	△ (計150室)
⑧整備・コスト (改修・仮 設費用)	△ (老朽更新・スタンド屋根設置・ 仮設対応)	◎ (サッカー専用施設として整備)	○ (既存活用で整備最小限)	○ (既存利用で追加整備不要、 施設貸出料金が必要)

比較評価の観点

- 屋外施設の「沖縄県総合運動公園 陸上競技場」は、運営経験と収容力で優位だが、気象・バリアフリー対応等の整備において改修・仮設対応が必要である。
- 「奥武山新スタジアム」は新設のため、改修の必要がないが具体的な内容は今後の設計に依存する。
- 屋内施設は、天候の影響をうけず、安定した運営が可能であり、簡素・効率化の方向性に適合する。
- 「沖縄アリーナ」は改修不要・高水準設備で安全性・快適性・バリアフリー面の評価が高い。

施設名	沖縄県総合運動公園 陸上競技場	奥武山新スタジアム	コンベンションセンター (展示棟)	沖縄アリーナ
運営の観点	<ul style="list-style-type: none"> • 観客席は仮設スタンドで2万人規模に拡張可能 • 一般観客と選手団動線が一部で交差する可能性あり • 諸室が不足しているが仮設で対応可能 • 行幸啓の動線分離可能 • 屋外のため熱射、強風、降雨のリスクあり • 駐車場が限られているためシャトルバスでの輸送対応が必要 • 周辺の宿泊施設は限定的である 	<ul style="list-style-type: none"> • 観客席は将来的に1万人規模から2万人規模に拡張予定 • 新スタジアムのため動線等は分離可能と考えられる • 諸室や滞留スペースあり • VIP室や関連ゾーンあり • メインスタンド、バックスタンド共に屋根があり熱射や降雨リスク減 • 那覇空港から近く、公共交通アクセスに優れている • 周辺に宿泊施設が多い 	<ul style="list-style-type: none"> • 観客席が約5000人規模と小規模である • 一般観客と選手団動線が一部で交差する可能性あり • 諸室が不足しているが他棟で対応可能 • 行幸啓と観覧者動線が一部で交差する可能性あり • 屋内のため気象リスクなし • 駐車場が限られてるため、近隣の民間駐車場や公共交通機関の利用促進が必要 • 周辺に宿泊施設が多い 	<ul style="list-style-type: none"> • 観客席は約8000人規模 • 一般観客と選手動線の分離が可能 • 諸室が多く、サブアリーナや多目的室、近隣の施設で対応可能 • 行幸啓の専用動線あり • 屋内のため気象リスクなし • 立体駐車場あり、一般観客はシャトルバスでの輸送が必要 • 周辺の宿泊施設は限定的である
改修の観点	<ul style="list-style-type: none"> • メインスタンドの屋根設置やサイドスタンドの車いす観客席の設置が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 新スタジアムのため改修の必要なし 	<ul style="list-style-type: none"> • 既存施設で対応可能 	<ul style="list-style-type: none"> • バリアフリーに配慮した施設となっており改修は不必要
バリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> • 動線に段差があり、バリアフリー化が求められる • 車いす対応トイレの数が不足しているため仮設での設置が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • ユニバーサルデザインに配慮した設計となっている 	<ul style="list-style-type: none"> • 段差の改修や仮設トイレの整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> • 車いす席やトイレ、エレベーター設置等、バリアフリーに対応した施設である

まとめ

- 比較評価より、屋外主会場候補施設を奥武山新スタジアム、屋内主会場候補を沖縄アリーナとし、2施設を主会場の軸として、動線・行幸啓対応の補完を考慮する必要がある。
- 計画段階である奥武山新スタジアムは、立地、周辺環境等の面で優れているため検討の余地がある。

候補施設	屋内/屋外	総括評価	コメント
沖縄県総合運動公園 陸上競技場	屋外	○ (主会場軸案)	<u>収容力と大会後の活用性</u> で優位。動線・気象リスクへの補完が必要。
奥武山新スタジアム	屋外	◎ (新設候補案)	<u>アクセス良好</u> 。行幸啓動線・諸室の確保に優位。
コンベンションセンター展示棟	屋内	△ (屋内代替案)	動線整理・行幸啓対応に優れる。 <u>収容能力が課題</u> 。
沖縄アリーナ	屋内	◎ (屋内主会場軸案)	動線・安全・行幸啓で高評価。規模制約が唯一の弱点。※施設の所管課は沖縄市